

12)簿記を活用した農業経営自己診断システムの開発

根釧農業試験場 経営科

1.試験のねらい

根室、釧路地域の農業経営は、今日厳しい農業情勢下で営農を続けている。こうした中で、現地指導機関及び農家は、生産技術の改善、負債問題の解決などとともに経営管理能力の向上に対して強いニーズを持っている。本課題は、経営管理能力を向上させる上での問題点を解明し、それを踏まえて指導関係者及び農家の学習を支援するシステムを開発することをねらいとした。

2.試験の方法

①農業情報の提供・活用に対する農家の具体的ニーズ把握のため、昭和61年1月、62年1月に浜中町の全農家を対象にアンケート調査を実施し、指導機関、農家と現地検討会を行なった。

②パソコンを利用した支援システムを開発するため、浜中町、中標津町の農家(すべてパソコンを所有)をモニターとして、普及所、農家と昭和61年2回、昭和62年6回研究会を行った。

3.試験の結果

経営管理能力を向上させる上では大きな問題は、個別経営の経営状態を把握するデータが、農家、指導機関において十分に整理・蓄積されていないことである。特に経済データを整理・蓄積する簿記の記帳、活用を図る必要がある(表1)。支援システムは、この点のを重視して開発した。システムの特徴は、以下のとおりである(図1、2)。

①システムの操作性、効率性が良いばかりでなく、地域特性に応じた汎用性の高い情報の生産・活用ができる。

②個別経営が独自に経営・経済データを整理・蓄積し、それをそのまま利用し、農業経営診断及び各種シミュレーション分析を実行できる。

③指導機関によって実施される経営診断(農家間比較、指標との比較など)に対応する経営・経済データの整理・加工ができる。この支援システムにより、農家は自己経営の改善点を容易に把握することができ、また、指導機関は農家の経営状況を把握した上で適切な経営指導が可能となる。

表1.簿記の記帳率と活用度(%)

	利用状況	割合	割合
	記帳農家	役立っている	58.3
有効に利用できていない		19.4	6.9
税金対策程度		22.2	7.8
小計		100.0	35.3
無記帳農家	つけ方がわからない	40.9	26.5
	手間がかかる	36.4	23.5
	役に立ちそうもない	4.5	2.9
	経験でわかる	6.1	3.9
	その他	12.1	7.8
小計	100.0	64.7	
合計			100.0

試験場

農家・普及所

1. 計画案（考え方、内容、処理方法など）の提示 ←→ 内容、地域性の検討
2. プログラム・マニュアルの作成 ←→ 内容、操作性の検討
3. 他のプログラムとの関連整理 ←→ データの打ち込み

1と2では、試験場と現地利用者間で現地(2ヶ年に1度程度)において、幾度となく、意見交換を行なっている。

図1.システムの開発方法

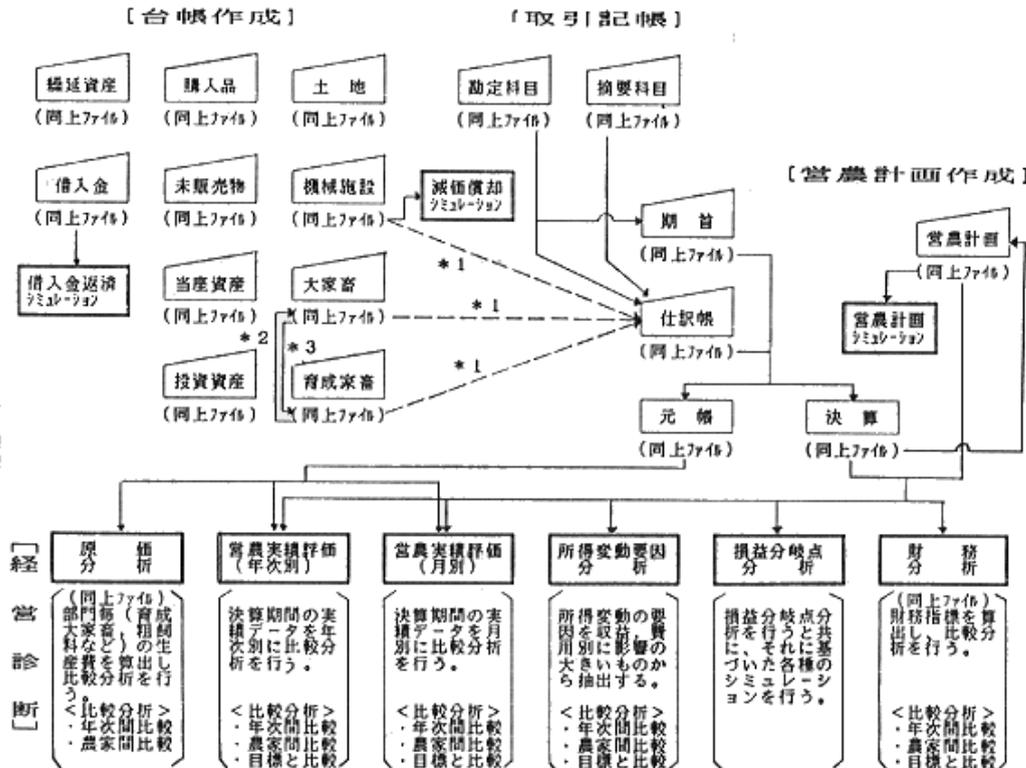


図2.簿記を活用した農業経営自己診断システム

補足説明

- データを入力して作成する。
- 関連するデータファイルにより作成する。
- シミュレーション及び経営診断

- *1 取引があった場合は、取引データを仕訳帳へ転送。
- *2 育成家畜台帳→大家畜台帳のデータ転送。
- *3 大家畜台帳→育成家畜台帳のデータ転送。